

「スーチー氏解放求める」 「静かな外交の効果まだ」

駐ミャンマー大使に聞く



丸山市郎大使

方で「欧米にない独自のチャネルを持っている」と強調し、アウンサンスーチー氏の釈放を国軍に働きかけていることも明らかにした。

国軍がクーデターで権力を握ったミャンマーで、日本政府代表として国軍とやりとりしてきた丸山市郎・駐ミャンマー大使が9日、朝日新聞などの取材に応じた。弾圧を続ける国軍に対し、水面下で自制を求めてきた日本の外交について、「効果を出したとは思っていない」と述べた。

昨年2月1日のクーデター以降、丸山大使がメディアの取材に答えたのは初めて。丸山氏によると、「国軍に継続的に接触できている国がほとんどない」なか、日本は市民に対する「暴力行為の停止」などを国軍に訴えてきたという。国軍が任命した閣僚らとの面会時には「かなり国軍

側には耳の痛い話もしている」とも述べ、拘束された人のリストを国軍側に示すなどしてスーチー氏らの解放を求めていると明かした。

日本はミャンマーにとって先進国で最大の援助国だったが、クーデター後、新規の途上国援助(ODA)を止めた。ただ、継続中のODAはそのままで、経済制裁を科した欧米諸国とは違う対応を取っている。

丸山氏は、国軍トップのミンアウンフライン最高司令官と接触しているかどうかについては「答えにくい」と明言しなかった。

2018年から大使を務める丸山氏はミャンマー語が堪能で、赴任は5回目。民主化指導者のスーチー氏や、国軍トップに直接会える関係を築いてきた。

丸山氏のほか、現地で人道支援を続けてきた日本財団会長の笹川陽平氏も国軍とのパイプを持つ。9日には同財団が寄付した100万回分の新型コロナウイルスのワクチンが最大都市ヤンゴンに到着。その引き渡しに丸山氏が出席し、今回の取材に応じた。

丸山氏によると、日本からのワクチン寄付は初めて。市民の間では国軍が提供するワクチンへの拒否感が強く、日本財団がミャンマー赤十字社に寄付する形を取ったという。

(ヤンゴン)＝福山亜希

きつめる外交は、ミャンマーにおいては逆効果になる」と説明した。

だが、国軍側は日本政府の要求を聞き入れていない。丸山氏は「静かな外交」の効果はまだ発揮できていないと話し、「状況は混乱を極めていく」「最善を尽くしていく」とした。

ただクーデター後、日本が国軍の統治に反対する姿勢を取ると、国軍はいら立ちを募らせた。国軍幹部の一人は「日本は我々の要求を聞こうとせず、関係は冷え込んだ」と話す。

ひそかに動いていたとされる。